

研究会と研究誌のオープン化について

竹内 潔

地域生活学研究会 代表
富山大学人文学部

日本の地域社会は、少子高齢化の進行、コミュニティの形骸化、地域文化・伝統文化の喪失、自然環境破壊、生活環境劣化、中心市街地の停滞などの多くの問題に直面しています。これらの問題は多種多様な要因が絡み合っているために、これまでの学問体系では原因の究明や解決策の提示は困難な状況にあります。地域が抱える問題群を解決して持続的で内発的な発展が可能な地域社会を構築するためには、当該の地域で生活を営む「生活者」の立場から、生活に影響を与えている要因を様々な面から丹念に探っていく必要があります。このような視点から、従来の学問枠組みにとらわれずに、生活者をとりまく様々な問題を実証的に考究し地域の将来を考察することを目的として、2009年に富山大学のなかに「富山大学地域生活学研究会」を組織いたしました。また、この研究会の調査研究活動の報告書として、『地域生活学研究』という冊子を2号、刊行してまいりました。

このたび、より多くの側面と立場から地域社会と生活の問題を考究し、解決の実践へと繋げていくために、研究会の呼称を「地域生活学研究会」に改めて、大学の枠を越えてより多くの方々に参加していただくことといたしました。また、この3号から『地域生活学研究』の投稿をオープン化するとともに査読と編集の態勢を整えて、広く開

かれた研究誌とすることにいたしました。

日本の地域社会が抱える問題や将来のあるべき姿に関心のある方々の研究会へのご参加とご投稿を歓迎いたします。

